

## 1 はじめに

23日間の短い夏休みがあつという間に終わりました。みなさんの夏休みはどんな夏休みだったでしょうか。部活動の一斉中止。移動自粛。諸施設の閉館や商店の臨時休業。オープンスクールの中止や延期等々。楽しみにしていた家族や友達との大切な時間も思い描いた通りにはならなかったかもしれませんが、今朝の登校の様子に、皆さんのプラス思考で過ごした時間と前向きな2学期のスタートを感じることができました。

## 2 8月の記憶 ～ 登校日に代えて ～

さて、この夏休みの期間は、8月6日、8月9日、8月15日という3つの重要な日を含んでいました。広島への原爆投下、長崎への原爆投下、そして終戦という歴史の重い事実は、今年と同じこの8月、75年前のほんの10日の間に起こった出来事です。

今年の8月9日。ある番組の中で紹介された長崎出身の女性の言葉にはっとしました。

東京に出てきて一番ショックだったのは、8月9日、午前11時2分。75年前に原爆の投下されたその日、その時間。東京では誰も足を止める人がいないことだった。そして長崎の原爆で亡くなった多くの人々を追悼するサイレンが鳴らないことだった。長崎で生まれ育った私は、幼い頃から、その時間にはサイレンが鳴り、戦没者の方々に黙祷を捧げるのが当たり前のことだと思ってきた。私の周りの人はみんなそうしていた。車に乗っている人でさえ、その時間には車を止め、目を瞑って死者を弔った。ところが、東京ではそうではなかった。そういう事実に出会って始めて、大事な記憶というものは「それを消してはならない」と願う「強い意思の力」で刻まれ、多くの人々の思いによって時を超えるのだ、ということに気が付いた。

8月という月には、どの月よりもたくさんの、人の思いや記憶が繋がっているのです。

## 3 2学期スタート

さて、いよいよ1年間で一番長い2学期のスタートです。予定では85日間。大切なことは、各学年それぞれがテーマを正確に設定し、それを確実に実行することです。

まず、3年生のテーマは3つ。

1つめは「引継」～コロナ禍で活動も大幅に制限されていますが、その中で2年生・1年生に自分たちのどんな姿を見せてバトンパスするのか、ということです。

2つめは「ラストスパート」～2学期、残された時間のすべての行事の頭に「最後の」という言葉が付きまします。これもまた限られた条件の中に、悔いを残さない全力投球がテーマです。

そして3つめは「進路」～2学期はもう進路に迷っている時期ではありません。最後の三者面談は、3ヶ月後、11月の末です。「決めること」ではなく「やりぬくこと」がテーマです。

2年生のテーマは「継承」と「中心」です。

学校の諸活動を引退し、受検が中心となっていく3年生に替わり、生徒会役員の交代や部活動の新チーム発足など、名実ともに学校の主力、中心は2年生に移ります。コロナ禍で空白の部分も生じた旭中学校の歴史を、しっかりと次につなぐことができるよう力を蓄えてください。

1年生のテーマは「基礎・基本」です。

入学してすぐの4月から5月にかけて、長い臨時休業を経験しました。みなさんが中学生としてのベース（基礎・基本）を身に付けるには少し時間が不足していました。相手に伝わる大きな声、日常生活の中での挨拶や返事、自分の言葉で考えを人に伝える表現力、自分をごまかさず本当に力のつく学習方法や生活習慣など。なぜそういうことが必要なのか。それが自分の未来にどうつながっていくのか。この2学期、再度中学校生活のスタートに立ち返り、中学生としての心構えを磨いてください。

## 4 おわりに

中国に「塞翁が馬」の故事があります。「悪いことの次にはよいこともある」という「禍福はあざなえる縄のごとし」ということわざに似ていますが、「よい・悪い」を時系列で捉えるというよりも、「誰もが悪い状況だと考えていることの中にも、きっと物事が好転する（よい方向に向かう）種が含まれている。」という同時的な意味合いの強い言葉です。

コロナ禍で世の中は騒然としてますが、その中にある「種」に気付くかどうか。一度しかない貴重な中学生時代をボーッと嘆いている暇はありません。貴い時間であればこそ、将来、豊かな実りとなるはずの「種」を、一つでも多く見つける2学期にしてほしいと願っています。